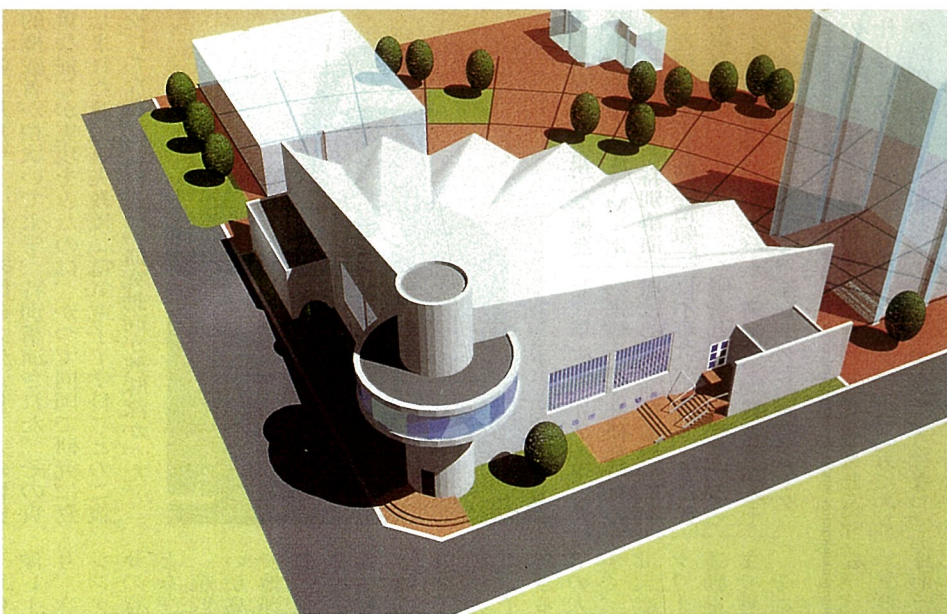


平成8年(1996年)11月1日発行



## ◎学園創立90周年記念事業 スチューデントセンターの建設

感性と創造性を育む  
課外活動の拠点!!

この事業は、後援会、工友会等の外郭団体の全面的協賛を得て、総事業費四億円を建設費とするものである。大学は、次代を担う学生たちに「もつと感性と創造性を育むための充実した教育環境を」という願いから、記念事業として選んだものであり、学生の課外活動の

感性と創造性を育む  
課外活動の拠点!!

感性と創造性を育む  
課外活動の拠点!!



その実習工場では、国産初の飛行機が製造され、試験飛行に挑戦したという。

## 産業界・学界有識者を招いてスタート

いつの時代にも新しい技術に夢を持ち、挑戦し、その飛行機が製造され、試験飛行に挑戦したという。

工業高等学校校長、委員には東京工業高校総務部長、両校の教務部長および補佐、各学科主任および教諭、工業教育研究所のメンバーが参画。なお、理事長、産業界・学界有識者から助言をいただくことになっている。

## 自動車部またまた優勝

ホンダエコノパワー競技大会で栄えある6連覇を達成!!



OBを交えて優勝を喜ぶ部員たち

## 特別展のお知らせ!! 時計とその生産技術

### ●主な展示品

時計の歴史を紹介する実物の時計/時計のそれぞれの動作原理を示す原理模型/明治時代の時計旋盤・歯切盤・歯車成型機/昭和時代の歯切盤・時計部品製造自動旋盤の実演/時計部品の組み立ての実体験コーナーなど。

会期: 11月2日(土)~11月17日(日)  
会場: 日本工業大学工業技術博物館  
入場料: 無料

### ◆特別講演会のご案内

演題=時計と生産技術の歴史  
講師=内田星美先生(東京経済大学教授)  
日時=11月7日(木) 14時~16時  
場所=日本工業大学 学友会館

この十月二十日、筑波の(財)日本自動車研究所(高速周回路)で催された、第十六回「本田宗一郎杯ホンダエコノパワー燃費競技全国大会」の大学クラスにおいて、本学の自動車部が見事に、二位を独占。実に六連覇という偉業を達成した。

## 即戦力のエンジニアを育成する 工業高校生の学園

| 学部  | 募集人員          | 願書受付  | 試験日   | 合格発表  |
|-----|---------------|-------|-------|-------|
| 工学部 | 機械工学科 (40名)   | 1月10日 | 2月12日 | 2月20日 |
|     | 電気電子工学科 (40名) |       |       |       |
|     | 建築学科 (40名)    | 2月6日  | 2月13日 |       |
|     | 情報工学科 (30名)   |       | 2月14日 |       |
|     | システム工学科 (30名) |       |       |       |

●お問い合わせは●日本工業大学 教務課入試係  
〒345 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 ☎0480-33-7507(代)



平成9年度一般入試



# 近代レーダーと画像情報

イリノイ州立大学電気電子工学科教授  
ウォルフガング・マーチン・ボーナ氏

## 特別講演①



この十月初旬と中旬、米国の大学より二人の世界権威者が相次いで来学、特別講演された。その貴重な催しが実現をみたのは、かつて同国で研究に勤しまれた渡辺康夫教授（電気電子工学科）とのご親交にちなむが、最先端の研究動向が興味深かった。

十月四日、情報工学棟会議室において、W・M・ボーナ教授による特別講演「近代レーダーと画像情報」が催された。

ボーナ教授はペンシルバニア州立大でPh.Dを得て、七十八年からイリノイ州立大の通信・センサ研究所長の職にある。地球環境モニタ「近代レーダーと画像情報」に不可欠な偏波レーダーの提唱者として知られている。講演は、「地震予知と干渉レーダー」「偏波レーダー」

「地中レーダー」「立体画像レーダー」の四部からなり、次世代リモートセンシングにおける電波センサの意義を認識させるものとなった。

超低周波数から光に近い超高周波数の電波の目で地球環境を見ると、地表の歪み、災害、遺跡等を示す特徴的な信号を観測できる。例えば0.1Hz帯の電界は地震の前に上昇する。これはプレート間の圧力で岩石が砕け、荷電粒子が流れ出るために起きるのだが、電気機器等の人工雑音と混同しやすく、地震予知への利用は大変難しい。当大学のクリンアンドグリーン運動を電波伝搬の空間にまで是非広げて欲しい。そこで宇宙からマイクロ波レーダーで地表の歪みを計測する研究が注目されている。時期を変えて観測される二枚のレーダー画像を重ねると、光の干渉原理と同じく、この期間中に地表に高低差が生じた地点を示すインターフェログラムが得られる。これによって神戸地震前後の起伏の変化や、サンアンドレアス断層域の3mm隆起した範囲を特定できる。一定期間毎のインターフェログラムは地震予知に不可欠な技術となろう。電波の水平、垂直偏波を組み合わせると、災害対策やエコロジーセンシングに必要な地表の様相を詳細に観測できる。ミシシッピ川氾濫の際、堤防の決壊箇所や堤防の地盤の土砂がえぐられて川面に押し上げられる様相（次の決壊予測箇

所等を偏波レーダーでリアルタイムで把握できた。また、一面緑色に写るフロリダも偏波レーダーによってマングロープ等の植物相を識別できた。

航空機搭載のマイクロ波地中レーダーは考古学へも応用されている。遺跡中央を走る地表下の秋分線を探知し、現在の方位との差から年代推定に役立った。ごく最近、航空機に搭載した二台の空中線で地表の高低差を10cm毎に分解できるようにになった。新しい応用が期待される。

## 特別講演②

### 「テラヘルツ技術の現状と動向」

ミシガン州立大教授兼NASAテラヘルツ研究センター長  
ファウズ・ウラベイ



十月二十一日、情報工学棟会議室による特別講演「テラヘルツ技術の現状と動向」が催された。

ウラベイ教授はテキサス州立大でPh.Dを取得し、現在はミシガン州立大教授とNASAテラヘルツ研究センター長を兼務している。専門は電波工学で、米国電気電子学会のリモートセンシング部会長を歴任した。また、全米の最優秀電気工学科教授にも選ばれた。

講演は、ミシガン州立大教授兼NASAテラヘルツ研究センター長を兼務している。専門は電波工学で、米国電気電子学会のリモートセンシング部会長を歴任した。また、全米の最優秀電気工学科教授にも選ばれた。

講演は、ミシガン州立大教授兼NASAテラヘルツ研究センター長を兼務している。専門は電波工学で、米国電気電子学会のリモートセンシング部会長を歴任した。また、全米の最優秀電気工学科教授にも選ばれた。

講演は、ミシガン州立大教授兼NASAテラヘルツ研究センター長を兼務している。専門は電波工学で、米国電気電子学会のリモートセンシング部会長を歴任した。また、全米の最優秀電気工学科教授にも選ばれた。

講演は、ミシガン州立大教授兼NASAテラヘルツ研究センター長を兼務している。専門は電波工学で、米国電気電子学会のリモートセンシング部会長を歴任した。また、全米の最優秀電気工学科教授にも選ばれた。

## 電気電子工学科の鈴木務教授 IEEE AES Society より 栄えある功績賞を受賞



本代表としての貢献に対するもの。ちなみに同教授は、一九三〇（昭和五）年、東京に生まれ、東京都立港工業高等学校機械科卒業後、五五年に電気通信大学電波工学専攻卒業。のち同大学助手、講師、助教授、教授を経て学部長として活躍されたが、日本工業大学開校以来、非常勤講師として指導に当たられており、本年四月一日、正式に教授に就任された。

この間、東京大学留学研究員、オハイオ州立大学客員研究員に就任。電子計測、レーダー、リモートセンシング、電波航法、生体エレクトロニクス、電子応用、地下探査といった、多岐にわたる分野のエレクトロニクスに就いていた。

## システム工学科主任に 原利次教授が就任



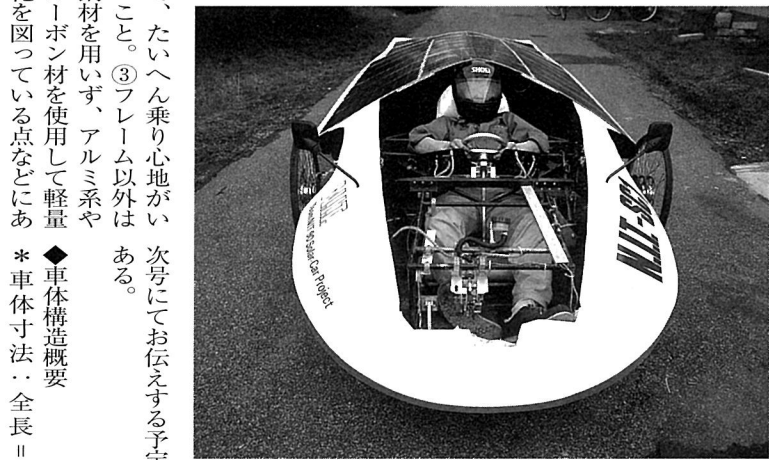
この十月よりシステム工学科の原利次教授が前任の三宅正二郎教授に代わって、学科主任に就任した。

同教授は、昭和三十三年生まれ。昭和三十七年に東京大学工学部航空学科を卒業、賞、九州電気協会技術賞を授与されている。

そして、平成四年四月、本学システム工学科教授に就任。平成六年四月からこの九月までは、教務部長補佐としての重責をも遂行されてきた。

この度、新に学科主任に就いた原教授は、「本学科には、核となる専門の研究を行っている先生方と、それらを横断的に結ぶことを旨としておられる先生方とがおり、これらで必ずしも二つの要素が有機的に複合しているとは言い難かった。従って、今後は『要素から総合へ』をテーマに、果敢にシステム工学のあるべき姿に取り組みで行きたい」と、その抱負を語っている。

同学科の、より一層の発展を期待したい。



## ソーラーカーの第1号 酒井茂紀教授らの手で完成

KMITTの事業に参加へ

この十月中旬、わが日本工業大学初のソーラーカー「NIT-SC1」号が誕生した。

本マシンは、本学と親密な関係をもつタイのキングモンクトット工科大学（KMITT）より、ブーミポン国王即位五〇周年を記念して開催されるエキシビション（十一月十四日～十八日）への参加を招請されたことにちなんで製作をみたもの。プロジェクト・チームは、機械工学科の酒井茂紀教授を中心として、同教授がセンター長を務める機械工作センターのスタッフ、ならびにソーラーカー作りに豊富なキャリアを有する日本工業大学付属東京工業高等学校の松林孝教諭（機械科）らによって編成され、ことが推進された。

「NIT-SC1」号の製作期間は、およそ二カ月。酒井教授によれば、「本来ならば、もう少し日時をかけたかった。マシンの主たる特色は、

で、たいへん乗り心地がいいこと。③フレーム以外は鋼材を用いず、アルミ系やカーボン材を使用して軽量化を図っている点などにある。

◆車体構造概要  
＊車体寸法…全長二五、径二六m

◆性能  
＊最高速…一〇〇km/h  
＊変換効率…一七％  
＊構成…六〇〇mm×四二〇mm×三〇枚、七五、六m  
＊蓄電池  
＊種類…Zn、Ni、Mn/株ユアサバッテリー  
＊モーター  
＊種類…DCブラシレス／ユニーク社（U.S.A.）

◆性能  
＊最高速…一〇〇km/h  
＊変換効率…一七％  
＊構成…六〇〇mm×四二〇mm×三〇枚、七五、六m  
＊蓄電池  
＊種類…Zn、Ni、Mn/株ユアサバッテリー  
＊モーター  
＊種類…DCブラシレス／ユニーク社（U.S.A.）

◆性能  
＊最高速…一〇〇km/h  
＊変換効率…一七％  
＊構成…六〇〇mm×四二〇mm×三〇枚、七五、六m  
＊蓄電池  
＊種類…Zn、Ni、Mn/株ユアサバッテリー  
＊モーター  
＊種類…DCブラシレス／ユニーク社（U.S.A.）

◆性能  
＊最高速…一〇〇km/h  
＊変換効率…一七％  
＊構成…六〇〇mm×四二〇mm×三〇枚、七五、六m  
＊蓄電池  
＊種類…Zn、Ni、Mn/株ユアサバッテリー  
＊モーター  
＊種類…DCブラシレス／ユニーク社（U.S.A.）

◆性能  
＊最高速…一〇〇km/h  
＊変換効率…一七％  
＊構成…六〇〇mm×四二〇mm×三〇枚、七五、六m  
＊蓄電池  
＊種類…Zn、Ni、Mn/株ユアサバッテリー  
＊モーター  
＊種類…DCブラシレス／ユニーク社（U.S.A.）

◆性能  
＊最高速…一〇〇km/h  
＊変換効率…一七％  
＊構成…六〇〇mm×四二〇mm×三〇枚、七五、六m  
＊蓄電池  
＊種類…Zn、Ni、Mn/株ユアサバッテリー  
＊モーター  
＊種類…DCブラシレス／ユニーク社（U.S.A.）

◆性能  
＊最高速…一〇〇km/h  
＊変換効率…一七％  
＊構成…六〇〇mm×四二〇mm×三〇枚、七五、六m  
＊蓄電池  
＊種類…Zn、Ni、Mn/株ユアサバッテリー  
＊モーター  
＊種類…DCブラシレス／ユニーク社（U.S.A.）



■内田盛也氏の講演抄録

工学の知恵は

「ドゥーイングサイエンス」から

科学技術基本法が昨年十一月に衆議院、参議院で全会一致で可決され、十一月十五日に公布された。それに基づいて平成八年七月二日には科学技術基本計画が閣議決定され、平成八年度から十二年度の五年間に十七兆円の予算が決定された。この陰には、内田盛也先生の寝食を忘れてのすさまじいご尽力があったからである。さらに、小・中・高の科学技術教育を日本学術会議で初めて提案され、その輪が広まりつつあることは先生の工業高校への熱い情熱と大きな期待と受け止めている。以下は、本学での研究会で講演された所見の概要である。

人間の行動力⇨個性×環境

社会のさまざまな現象や人材育成に触れる前に人間の行動力について述べておきたい。人間の行動力は個性と環境の関数である。今日、日本の社会において、さまざまな個性を持った青少年が自分の個性を伸ばすことへの夢と情熱を持ち、社会にでて「知」を集め、創作・開拓への志しを育てる環境にはほど遠いものがある。このような能力は学習塾通いの中からは生まれてこない。

松下幸之助、本田宗一郎の両氏は関係する大学の研究室を這い回りながら「知」を集め、企業を開拓した日本の代表者である。歴史的転換期である日本において、学歴重視から学習歴を大切にする本当の「生きる力」を育てる環境を大人が責任を持って、積極的につくらねばならない時代にきている。

サイエンスベーステクノロジー

産業構造が急激に変化している段階で、わ



内田 盛也氏 1953年、東京工業大学卒業。帝人中央研究所所長、生産技術研究所長、常務理事などを歴任。現在は帝人顧問、ならびに日本学術会議第5部（工学）部長として活躍されている。

われは、何を考えなければならぬか。やはりイノベーション、つまり「サイエンスベーステクノロジー」しか生きる道がない。長銀総合研究所が一九九四年三月に実施した日本の製造業の海外シフトに関する調査によると、国内にどうしても残したい拠点として、基礎研究八七％、応用研究七二％、試作工場五二％、設計開発四八％などがあげられている。

将来の生産構造として、電気系企業中心に汎用品大量生産工場が海外にシフトし、日本では研究、試作工場、設計・開発という知的活動のウエイトを高めるといふ構図がだされている。

大学は個人が知的好奇心からチャレンジするところである。新知識を活用して価値のあるものを生み出すのがサイエンスベーステクノロジーで、工学の知恵である。科学を重視する教育は「ドゥーイングサイエンス」でなく、「ドゥーイングサイエンス」が基本である。

二十一世紀に向けての人材教育

日本の基本的な時代認識として、四つの潮流の変化がある。

○グローバルゼーションの進展

○キヤッチアップ型経済成長からの脱却

○少子・高齢社会への移行

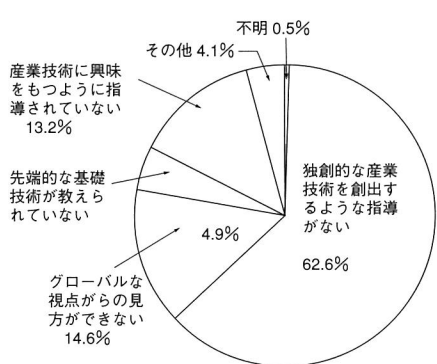
○情報通信の高度化の進展

これらの新しい経済社会の建設は、これまでの学歴志向、画一的人材による集団行動ではなく、学習歴を重んじた個性ある人々と産・学が協力して独創的活動を協力に推進するしかない。

先ごろ、日本学術会議の第五部の委員会が「転換期にある工学と産

業のかかわりについて」という産業界の意識調査を行った。一六〇〇社の企業に調査票を出したところ、約四〇〇社から回答があった。その結果を見ると、ほとんどの企業が「産業パラダイムの転換が起きる」と考えている。人材教育をどうする

かについては、「変革が必要である」が九六％を占めていた。予想外の大きい数値に驚いている。



人材教育の改革が必要である理由

「変革を必要」とする理由は図に示した。これは、大学だけの責任でないかもしれないが振り返ってみる価値ある課題である。

さらに、日本の賃金は高い。日本を二〇〇とすると、ドイツが八六、アメリカが六四、イギリスが五五、フランスが四八、そうしてシンガポール、韓国、台湾、中国の順で下がっている。いま、アジアの留学生の多くは英語を勉強したあとアメリカに行き、帰国してから工場建設をするのが夢となっている。

ともかく、日本の若者たちに独創力を発揮してもらいような環境をつくらねばならない。独創性は、小・中・高校生段階の早い時期に培われるものだ。

世界の「一極」として活動する学園たれ！

今日、世界的にみて日本の大学の魅力は少ないという。多くの大学がミニアカデミック化して特色を失っている。あるべき姿としては、たとえば自動車のことならA大学、繊維はB大学、鉄道はC大学と、ここに来れば最高の知識・技術・情報が得られ、さらに、世界や、産・官・学のネットワークで結ばれ、世界の「一極」としての研究と教育活動をする大学であり、国際的に開放され、すべての人々にチャンスを与え得る大学である。

グローバルゼーションの進展の中で、本大学のような日本で唯一の特色ある大学と最強の企業と連携し協力することによって世界の「一極」として活動できる学園ができると期待している。

日本工業大学が日本の工業技術プロフェッショナルスクールを中心極としてリーダーシップを発揮して下さることをお願いしたい。（工業教育研究所 木村寛治教授）

平成7年度決算・平成8年度予算

国際化・情報化および生涯学習社会に備えて

○財務状況について  
第二九期決算・第三〇期予算が公認会計士及び法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認決定されましたので、ここに財

務諸表を公表し、関係各位のご理解とご協力をお願いする次第です。  
十八歳人口の減少期に入り、私学にとってはいかにして教育・研究の充実ならびに特色化を図り、財政基盤の維持安定に努めるかが大きな課題となっています。この課題に対して、本学では様々な大学改革に取り組んでいます。例えば、カリキュラムの改革、授業計画（シラバス）の作成、科目等履修生の受入れや編入学の受入れ、自己点検・評価への取り組みです。さらに国際化・情報化・生涯学習社会の進展等の長期的展望に立脚した大学教育・研究の取り組みが必要不可欠になっています。この課題に対しても本学は、高度情報化・国際化社会で活躍できるハード・ソフトウェアの両面の技術を併せ持つ人材の育成を目指し、昨年四月に「情報工学科」を開設いたしました。  
今後、教育研究、学生生活環境の整備改善、財政の見直しに努め魅力ある大学作りに鋭意努力していく所存です。ご父母の皆様はじめ、卒業生、教職員、学校関係者の皆様のますますのお力添えをいただき、さらに発展させて参りたいと考えております。  
○平成七年度決算について  
教育研究活動の充実と活性化をめざした教育研究経費を確保し、円滑なる学生教育と研究活動を支えました。また、施設の改善や設備の充実に配慮し、本館改修工事、4・8号館の改修と空調設備工事、給水本管敷設工事、ガス本管敷設工事等の予算が執行されました。購入した主な教育研究用機器備品は、フィールドエミッショナル型オージェマイクロプローブ、新素材微

細領域高温ひずみ評価システム、学内LAN装置、磁性物性測定装置、赤外放射率測定装置等です。  
○平成八年度予算について  
研究旅費、特別研究費の枠の拡大、大学院予算の見直し等、教育研究費のより一層の充実が図られました。本年度の主たる施設計画は機械工学科実験研究棟・機械工作センター新築工事（総工事費三十億円）、学園創立九十周年記念事業のスケューデントセンター新築工事（総工事費四億円）等が予定されています。  
○財務諸表について  
平成七年度の全ての収支を表示する資金収支計算書、期末における全ての資産と負債の状況を示す貸借対照表、平成八年度資金収支予算書は別表の通りです。

機械工学科実験研究棟および工作センターの新築工事、順調に推移

この六月に起工した機械工学科実験研究棟・機械工作センターの新築工事（総工事費三十億円）は、すでに基礎工事を終えて、ご覧のように、現在鉄骨組みが行われている最中である。  
設計者は、これまで一連のキャンパス施設を手がけられている建築学科の村口昌之教授。その建築要に関しては、次号で詳細にお知らせする予定である。  
ともあれ、平成九年度の新学期が、たいへん待ち遠しい。



貸借対照表

平成8年3月31日現在

| 資 産 の 部      |                | 金 額            | 負債・基金金及び消費収支差額の部   |                | 金 額            |
|--------------|----------------|----------------|--------------------|----------------|----------------|
| 資産の部         |                |                | 負債の部               |                |                |
| 固定資産         |                | 18,929,862,724 | 固定負債               |                | 5,007,684,376  |
| 土 地          | 1,942,135,355  |                | 長期借入金              | 3,748,740,000  |                |
| 建 物          | 10,240,113,707 |                | 退職給与引当金            | 1,258,944,376  |                |
| 構築物          | 1,260,966,285  |                |                    |                |                |
| 教育研究用機器備品    | 4,292,526,454  |                | 流動負債               |                | 2,788,294,301  |
| その他の機器備品     | 114,857,059    |                | 短期借入金              | 262,180,000    |                |
| 図 書          | 1,012,475,878  |                | 未払金                | 64,561,531     |                |
| 車 輛          | 6,787,986      |                | 前受金                | 2,337,601,250  |                |
| 建設仮勘定        | 60,000,000     |                | 預り金                | 123,951,520    |                |
|              |                |                |                    |                |                |
| その他の固定資産     |                | 3,465,732,754  | 基本金の部              |                | 23,900,161,328 |
| 電話加入権        | 2,270,888      |                | 第 1 号基本金           | 23,050,823,456 |                |
| 有価証券         | 450,451        |                | 第 3 号基本金           | 421,399,208    |                |
| 差入保証金        | 667,700        |                | 第 4 号基本金           | 427,938,664    |                |
| 退職給与引当特定資産   | 638,679,750    |                |                    |                |                |
| 施設引当特定資産     | 2,214,044,439  |                |                    |                |                |
| 設備引当特定資産     | 164,641,126    |                |                    |                |                |
| 育英基金引当特定資産   | 23,579,192     |                |                    |                |                |
| 第 3 号基本金引当資産 | 421,399,208    |                |                    |                |                |
|              |                |                |                    |                |                |
| 流動資産         |                | 4,018,777,387  | 消費収支差額の部           |                | △5,281,767,140 |
| 現預金          | 3,768,897,657  |                |                    |                |                |
| 未収入金         | 224,501,250    |                |                    |                |                |
| 仮払金          | 24,751,480     |                |                    |                |                |
| 受取手形         | 627,000        |                |                    |                |                |
|              |                |                |                    |                |                |
| 資 産 の 部 合 計  |                | 26,414,372,865 | 負債・基金金及び消費収支差額の部合計 |                | 26,414,372,865 |



建 築  
コンペ

# 難題に挑戦の力作が集う！！

## 第10回 日本工業大学建築設計競技入選者

佳 3 2 1  
作 等 等 等

獎勵賞

第10回

|                    |     |     |
|--------------------|-----|-----|
| 兵庫縣立神戸工業高等学校       | 林   | 真一郎 |
| 兵庫縣立龍野実業高等学校       | 馬   | 千晴  |
| 兵庫縣立神戸工業高等学校       | 畑山  | 義昭  |
| 群馬縣立館林商工高等学校       | 荒川  | 広安  |
| 群馬縣立藤岡工業高等学校       | 逸見  | 淳子  |
| 群馬縣立館林商工高等学校       | 上田  | 真智子 |
| 日本工業大学付属東京工業高等学校   | 柿沼  | 靖治  |
| 兵庫縣立龍野実業高等学校       | 加藤  | 孝之  |
| 兵庫縣立龍野実業高等学校       | 小谷  | 佳之  |
| 青森縣立弘前工業高等学校       | 津葉  | 直生  |
| 兵庫縣立兵庫工業高等学校       | 村上  | 朋子  |
| 青森縣立弘前工業高等学校       | 森田  | 健一  |
| 群馬縣立高崎工業高等学校       |     | 由美子 |
| 山形縣立鶴岡工業高等学校       |     |     |
| 埼玉縣立大宮工業高等学校       |     |     |
| 安田学園高等学校           |     |     |
| 石川縣立羽咋工業高等学校       |     |     |
| 日本工業大学建築設計競技（選外佳作） |     |     |
| 神奈川縣立神奈川工業高等学校     | ○相澤 | 雄一  |

群馬県立前橋工業高等学校  
兵庫県立豊岡実業高等学校  
青森県立弘前工業高等学校  
群馬県立館林商工高等学校  
群馬県立藤岡工業高等学校  
愛知県立半田工業高等学校  
青森県立弘前工業高等学校  
青森県立弘前工業高等学校  
静冈県立静岡工業高等学校  
大分県立鶴崎工業高等学校  
大阪府立西野田工業高等学校  
愛媛県立松山工業高等学校

○印は共同作品の代表者です。(敬称略)

日本工業大学建築設計競技は、今年で第十回になる。審査委員の先生方と事務担当は、平成7年9月に決まり、その頃から、課題の検討に入り、平成8年2月上旬に課題は決定した。

課題は、「余暇農業のできる自然重視の住まい」となり、募集要項とポスターを日本全国の工業高等学校へ、4月からの授業に間に

合うように3月上旬に発送した。実際は、4月からの課題にとり入れる工高と夏休みに頑張る工高があるようだ。

高校生には難しい課題のようだったが、8月31日消印の図面が、9月に入って続々と届いた。

応募図面を整理した結果77校、350点の応募をいただいた。これは過去最高

の応募点数で、今までに応募した工高が、今回は応募して来なかったり、初めに応募した工高もあったが継続して応募している工高が多数あった。

なかには、46点もの応募の工高もあった。地域的にも北海道から九州までと全国に及ぶ。

9月6日に、1等から3等までと佳作10点を選び

さらに、選外佳作13点を加えることとなった。また恒例の奨励賞を、多数応募校4校に贈ることとした。

指導にあたられた先生方暑いさなかに奮闘された応募者の熱意に、改めて敬意を表します。惜しくも賞を逃された方も、設計競技参加を契機に、これからもおいに精進されることを願っています。事務局・佐藤

い  
ず  
れ  
お  
と  
ら  
ぬ  
傑  
作  
揃  
い

審査委員長——宮坂修吉教授



古ハ言葉ニ青井雨売トハ

古い言葉に晴耕雨読というのがあるが、晴れた日に田畑を耕し、雨の日には本を読むという生活は悠々自適とともに含蓄のある言葉である。唐の詩人の中には折角科擧の試験に合格して都に上ったが夢破れて故郷に帰り、晴耕雨読の生活を楽しんだ人が何人かいる。

家族全員が晴れた日には外に出て家庭菜園や花造りや果実造りに精を出すにはそれに適した住まいが欲し

つた。

少しこうした経験がある学生にとっては興味のある仕事だったと思うが、やったことのない学生にとっては難しい設計だったと思う。

農家には庭先の作業場や土間や納屋が揃っているこのようなものを規模を縮小して取り込んだり、囲炉裏のように家族や近所の人人が集まったりする場所がほしい。また収穫したものを作舞っておく場所もある

せることも一つの考え方である。あるいはサンルームやアトリウムを作ることも考えられる。

しかも全体として形のよい一つの住まいとしてデザインしなければならぬ。

このようにして一つの家として、また農作業の拠点として、様々な機能をもった住まいが分かりやすく表現されて送られてきた。どの作品もいずれおとらぬ傑作揃いであった。

## 拔群だった林君の作品

波多野 純教授



一等林真一郎君の作品は  
拔群だった。農業は共同で  
するものだとする基本概念

と、その中で個性をどう生かすか、実にうまい解答が導き出されている。外観も近畿地方の土塀で囲まれた伝統的農業の面影を残しながら、楽しさを付け加えている。

二等馬躰千晴君は、物事を丁寧に掲う、よき資質を備えていると思う。四季を大切にし、火の見櫓・水車

と行き届いた神経が感じられる。

三等畑山義昭君の作品は実によくまとまった美しい平面をしている。断面が示す空間構成も楽しい。欲を言えば周辺の環境を示し悪条件の下でも可能な提案であることを、全面に出してはしなかった。

君は、自分の考えを伝えたい気持ちにあふれた図面を描いてくれた。加藤孝之君は、沖縄出身なのだろうか。ヒンブンなど沖縄の住宅の基本要素をふまえ、色彩もそれにふさわしい。小谷佳之君の、積極的取り組みは好感が持てる。平面もよくこなれている。千葉直生君

佳作もそれぞれに、魅力的な点があった。荒川広安君の緑の階段は、周囲の人々を和ませてくれるだろう。逸見淳子君は、具体的に物事を考え実現して行く力がある。図面も見事だった。上田真智子君は、生活を樂しむ術を知っている書き込みをじっくり読ませてもらいました。柿沼靖治

は、よくまとまっていた。津井朋子君は、設計が実にうまい。台所の置き方、水の導き方、全体が調和している。村上健一君は、階段状のガラス屋根が全体をうまく繋いでいる。森田由美子君は高校生とは思えない熟達度を示してくれた。

何と言っても楽しい作品展が多かったことが嬉しい。

## ■設計競技 9年間の課題と1等入選者

|                     |                              |
|---------------------|------------------------------|
| 第1回 (1987)          |                              |
| *都市郊外に建つ住宅の設計       | 石川 誠一(大阪府立西野田工高)             |
| 第2回 (1988)          |                              |
| *都市郊外に建つ地下室をもつ住宅の設計 | 大矢 雅祥(静岡県立島田工高)<br>森下 剛紀(同上) |
| 第3回 (1989)          |                              |
| *職住一致の併用住宅の設計       | 太田 明博(兵庫県立尼崎工高)              |
| 第4回 (1990)          |                              |
| *北斜面に建つ住宅の設計        | 加納健二郎(茨城県立水戸工高)              |
| 第5回 (1991)          |                              |
| *ホームステイのできる住宅の設計    | 岡本 修行(静岡県立島田工高)              |
| 第6回 (1992)          |                              |
| *ノーマライゼーションを目指した住まい | 松尾 愛(大分県立鶴崎工高)               |
| 第7回 (1993)          |                              |
| *ペントハウスのある住まい       | 石戸谷 朗(青森県立弘前工高)              |
| 第8回 (1994)          |                              |
| *大家族の住まい            | 水木 麻希(青森県立弘前工高)              |
| 第9回 (1995)          |                              |
| *災害に強い住まい           | 葛西 豊(青森県立弘前工高)               |

今後は省エネ重視の設計を

榆井 武一 助教授



余暇農業のできる自然重視の住まい」という課題に

対して、忠実に然も真剣に  
取り組んだ作品が多いのに  
感心した。余暇農業と自然  
と自然と住宅、住宅と余暇農  
業といった、それぞれの取  
り合わせにおいて、いずれ  
も環境創造に力点を置くコ  
ンセプトを持つ作品が多か  
ったことも審査していて率  
しかった。

余暇農業に対して、①農  
業を敷地外の共同農園に求

めるもの、②庭を農園で飾り住宅との調和に力点をおくもの、③さらに積極的にか家屋内に農園を取り込み、住まいと生活そのものを自然との調和の中に求めようとするもの等に応募作品を分類することができる。

分類別に良かった点をみ

胆なプランに意気込みが  
ること。等が挙げられ  
いずれも自然重視の立場  
ら、採光、通風、採暖、建物  
植生で覆つて、受熱防止、雨  
利用等が工夫されている、  
このようない工夫なり、  
アイデアなり、さらにコ  
セプトが実現できるため

ると①の場合でも離れた農園から家庭菜園のイメージを、デザイン的に住宅並びに庭園にうまく導入していること。②庭に、とつてつめたような菜園ではなく、住宅の建物と上手に調和させることによって、家庭菜園を楽しむ雰囲気がよく出ていること。③については、住宅そのものが植物と人間の生活を融合させる大

は、実現を阻む要因を取除かなければならない。して要因となるものが何あるかを先ず突き止める必要がある。それには、自環境要素の特性を把握計画設計、構造、施工法技術開発が必要であることを忘れてはならない。今省エネを踏まえて、建築境設備学の応用を諸君に待すところ大である。



英会話特別セミナー

有馬 真吾  
電気電子工学科2年

とは難しい。とても不安であつた。

しかし、実際、環境というものは、すごいもので、日本で学んだ数年間よりも、カナダで生活した三週間は深く心に残つた。ホストファミリーと暮らし、バスに乗り、大学に通い、人に話しかけてり、町を歩いているだけで新鮮でいて楽しく、そこは正に巨大な教科書であつた。特に印象的だつたのは、ファミリーとカナダの環境問題について、なんとか単語をつなげながら理解するまでうやむやにせず体当りで会話した事である。そんな時彼らの目を見て話している自分が、たまらなくかっこよくて、成長した事を実感した。

カナダで学んだ事は、例えるなら、知識というより

今井 寛明  
電気電子工学科3年

知恵であり、僕のプラスになった。空港でファミリーと別れる時、人前で流したことのない涙が流れた。お礼の言葉を言いたかったがただサンキューとしか言えなかった。くやしかった。もう一度カナダに行きたい。

赤ちゃんの中にステイ誕生の感動的出来事

今井 寛明  
電気電子工学科3年

今回カナダ研修に参加したのは国際語である英語を身につけることはもちろんのこと、異文化を見たり知ったりする良きチャンスで

あると共に、自国では体験できないことに触れてみたという強い思いに駆られたからでした。

カナダでは目に入ってくるものが全て新鮮で、草木による緑の多さと景色の素晴らしさには、目を奪われるほどでした。特にカナディアンロッキーでの遠々と続く山並みや青白く輝く氷河氷河によって作られたエメラルドグリーンの湖には自然の雄大さと美しさを感じとても感動しました。

当初は、英語力が不足のため、ホームステイ先でうまく生活していけるかととても不安でした。しかし、そんな心配も良き仲間のおかげがあったり、ホストファミリーの方々が温かく迎え入れてくれて、本当の家族のように接して下さったおかげで、いつの間にか解消毎日楽しく過ごすことができました。また、ホームステイ中に家族に赤ちゃんが生まれるという喜ばしい事もあって、貴重なホームステイ体験となり、この研修での一番の思い出となりました。

稲垣 英則  
電気電子工学科3年

多くの人と出会い、そして多くのものを見て自分の視野を広められた今回の経験は自分にとって大変良き体験、良き思い出となるものでした。この研修に参加して本当に良かったと思うし、多くの事を学ぶことができたカナダに感謝しています。

**辞書を片手の苦闘で  
英語力も一段と上達**

稲垣 英則  
電気電子工学科3年

学生時代からこそ出来る事という気持ちで参加したカナダ研修、みんな想いは様々ですが、帰ってきた時のみんなの表情は、充実感に満ちあふれていました。

バンクーバーでの三週間、プリティッシュコロンビア大学という素晴らしい環境の中で生きた英語に触れながら、カナダの歴史や文化を学びました。そして、多

二瓶 徳久  
建築学科3年

と  
め、よき想い出をつくるこ  
とが出来ました。

ホームステイ先では友人  
と一緒に心づよいかきりで  
した。そして、共に、家族  
の一員として、食事の準備  
を手伝ったり、ビールを飲  
みながら日本の文化や習慣  
大学生活のこと、将来の夢  
など時間が経つのを忘れる  
くらい話したこともありま  
した。

私自身、英語の力が不充  
分な為に身振り手振り、辞  
書を片手に持ちながら相手  
に自分の意志を伝えるのに  
必死だったのですが、この  
おかげか今では私の英語も  
かなり上達しました。

また、雄大な自然に魅せ  
られたカナディアンロッキ  
ー、霧の立ちこめたサンフ  
ランシスコなど本当に夢の  
ような時を過ごせ、自分自  
身の視野が広がったと思い  
ます。

私にとってこの貴重な経  
験は、一生の財産です。

最後にこのチャンスを与  
えてくれた両親と、協力し  
て下さった先生方に心から

新井 元和  
機械工学科3年

らまちがいなくスペインのバルセロナに行き、そしてイタリア等ラテンの国に行くことを考えるでしょう。

今回ヨーロッパ研修に参加しようと思ったのは、ヨーロッパは世界の歴史の中で大きな影響をあたえている地域であり、以前から一度行ってみたいと思っていたので、この研修に参加することにしました。旅行がはじまり、街の様子を見て感じたことは、日本のような電柱や大きな看板が少ないこと。そして、古い建物の外側はそのままにして内側だけを改装することによって街並を保とうとする努力でした。

各都市の有名な博物館や美術館では、教科書に載っ

伝統文化の大切さを  
改めて実感した旅

新井 元和  
機械工学科3年

内海 吾郎  
システム工学科3年

ていた、あるいはどこかで見たという絵や車をまちかで見られ、写真のイメージよりも大きいとか、写真では分からない裏側はこうなっているのかという発見があり、うれしく思いました。

今回ヨーロッパ研修に参加して得た成果は、どこの人達も伝統の文化や建物を大切にしているということで、日本の伝統文化の大切さを見直させられたこと。そしてさらに、現地の人と接することで、文化の違いを肌で感じるができたことの二つです。

異国文化を味わうには十分な旅……

内海 吾郎  
システム工学科3年

ヨーロッパ研修で感じたことは、第一にいそがしかったことです。しかし、いろいろまわることでたくさ

んの文化を見ることができました。印象深い所をいくつか思い出してみると、イスタンブールは、アジアとヨーロッパの接点ということとで、やはりアジアの色が強い感じ。アテネはアクロポリスという丘のパルテノン神殿は有名ということもあるけどすごいなと思いました。チューリッヒのユングフラウヨッホは、夏に雪山に登ることができ、広大な景色が見れてよかったです。

す。イタリアは三都市をまわって、その中でもベネチアは最高の所でした。そしてバルセロナからパリへ……。パリでは最終日ということとで疲れがありましたが見る所が多いので足が棒になるまで歩きまわったという感じです。

結果、思ったことは見所が多くて時間内に無理な所があったが、異国の文化を味わうには十分な旅ということでした。

スイスの登山鉄道の乗換え駅近くで……（撮影／高橋講師）

移民国家の

食生活



田口 幸恵講師  
共通系（英語）

する単一民族の国である日本とはかなり事情が異なる。

カナダの多民族性は、スーパーマーケットに出掛けてみても分る。食材の種類が非常に多い。野菜売り場にいくと、様々な野菜

ている。例えばキュウリ  
 こでも、三種類くらいあ  
 産地が明記されている。  
 種類の多さにも圧倒され  
 た。よくもこれだけの種  
 を大量に集めたなと思わ  
 せるくらい多種多様なバ  
 ンが、所狭しと並べられ  
 ている。お米も日本産の  
 米から、テキサス米、中  
 国米などがあり、どれを  
 買おうか迷ってしまう。



ボールドウィン家にステイした斉藤孝明(左)、斉藤太郎(右)の両君

と面白いことが起こらない  
かと思うようになってしま  
うほどでした。

ヨーロッパに初めて行った訳ですが、文化のスケールの大きさはただただ脱帽するばかりでした。例えば日本では考えられないほど大きな教会や、ルーブル美術館のすばらしさ、着工から百年がたち、さらに完成までは三百年とも四百年とも言われているサグラダファミリア等本当にグーなものがつまっていました。

その中でも特に良かったのは、バルセロナの街のきれいさとラテン系民族の明るさでした。もし次回ヨーロッパに行くことができた

歴史遺産の  
厚みに感銘



高橋 明遠講師  
電氣電子工学科

し、内装を変えて使用している。落ち着いた雰囲気と同時に歴史の厚みを感じさせる。古い建物が現代と無関係に単に歴史的建造物として保存されているのではなく、手を加えて現代生活に立派に生きている。歴史、伝統文化を大切に

遺産の  
に感銘



高橋 明遠講師  
電気電子工学科

し、過去が現在に生きているという印象を持つ。手を加えながら長期に使用するという思考様式が底流にあるのかもしれない。蓄積の層の厚さは美術館、博物館の展示にも表れている。オルセー、ルーブル、ウフツツイ美術館、ヴァチカン、ドイツ博物館などを見学したが、私達に馴染み深い作品が手の届く位置に、所狭しと展示されている。このような展示法は貴重な美術品、文化財に親近感、一体感をもて、好感を覚えた。

質量ともに豊富な歴史的遺産を目の当たりにして、新たな感銘を受けた。また、アルプスの雄大な眺めも記憶に鮮明に残る直に触れ、体験することの大切さを改めて実感した。感受性豊かな学生諸君にはインパクトが一層大きかったことと思う。最後に、今回の研修に際して種々のご配慮を頂いた理事長学長両先生はじめ大学関係者に深謝の意を表します。



◎学園創立九〇周年に向けて……

## 学園の大先生達——中尾哲二郎伝（その二）

### 製品開発に生きた、あくなき眼差し

前号で学園の大先生達の一人、中尾哲二郎氏（元松下電器産業（株）副社長、技術最高顧問）の東京工科学校入学までの経緯を記した。そこで今回は、母校で育んだ「技術マインド」に基づき、類いまれなる製品を次々に世に送り出した足跡に焦点を当てて、ご紹介することにします。

大正十二年（一九二三）三月、晴れて東京工科学校機械科の夜間部を卒業した中尾氏は、同年九月一日午前十一時五十八分に、あの関東大震災が発生したため勤務先の日本帝國徽章商會が灰燼に帰し、やむなく新天地を求めて大阪へ行く。そして、宿屋でふと目にした新聞広告が機縁で松下電器の下請け工場に入社した。

が、工場といっても、二坪半ほどの場所に、たった旋盤一台とボール盤一台があるだけ。また寝泊

まりもその工場の二階という、ちっぽけな会社だった。しかし、ようやく手にした職場である。従って、不満ではあったが、松下電器から回ってくる型の修理の仕事に地道に取り組んでいた。

その腕の立つ仕事ぶりを、ときおり自ら型の修理にやってくる松下幸之助社長が、そこはかとなく注目していた。そして、入社した年の十二月、今度は松下幸之助氏の引きで、松下電器器具製作所に入所したのだった。およそ一年ほど経った時だった。かつて生家が破産した際に、丁稚奉公を受け入れ、何かと世話になった浜野製作所の再建協力要請がなすが持ち上がり、幸之助氏に相談のうえ、退社して上京した。

それから一年数カ月、浜野製作所の復興を、なんとか軌道にのせた。そんな折りの大正十五年十一月、幸之助氏から電熱器具製作に

関して協力を求められ、昭和二年一月、松下電器器具製作所が電熱部を設置したの節目に、意を決して同社にて復帰した。

手初めの仕事は、アイロンの製作だった。が、中尾氏は「電熱器のデの字も、アイロンのデの字も知らなかった」（「技術者魂」松下電器産業（株）中尾研究所刊）。しかし、ひと一倍、努力家の同氏は、生まれ故郷の神田の古本屋を片っ端から歩いて参考書をあさったり、「市場に出ているアイロン全部を買って集めて分解したり」（同前出）して、たった三カ月ほどで製品を開発。見事、日本一のアイロンメーカーの端緒を拓いた。さらに昭和四年、新開発のサーモスタットを用いた電気コタツの大量生産化にも成功。同六年には日本放送協会（現NHK）東京放送局のラジオ受信機コンクールに試作品を出品して、一等に当選。製品化されたそれは、宮内庁買上げの榮譽にも浴した。以後、中尾氏は次々に新製品を開発し、いま中尾研究所の部長職にある森國人氏によれば、「取得した特許は三十近くに及ぶ」という。

一体、その旺盛なる挑戦心や開発力は何に由来するのか……。くだんの中尾氏は、前出の書で左記のように語っているが、その言葉のよに語らうに、仕事哲学の一端が垣間見えるようにも思われる。

「ぼくは変わった新しい仕事をやる場合は、メモ用紙をたくさん持っていてアイデアを片っ端から書いていました。そして一枚ずつ検討します。そうしたら欠陥がわかるのでそれを書きます」

ちなみに中尾氏には、氏が死去の数日前まで病床で記した数多くの製品アイデアのメモ書きが残っている、という。（S）

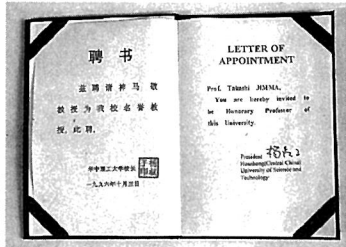
## 技術者魂②



電熱部の基礎をつくったアイロン一機種や、当選号と名付けて発売されたラジオなどは、同社の歴史館に展示されている。

### 松下電器産業(株)の礎石を築いた物たち

## 神馬 敬学長に 華中理大より 名誉教授の称号



九月下旬から十月上旬にかけて、学術交流推進などの目的で中国の華中理工大學（武漢）を訪問した神馬敬学長に、同大学より栄えある名誉教授の称号が贈られた。

わが日本工業大学と華中理工大學のキャンパス内には、共同のNC制御研究所（所長・黄一夫教授、華中理工大）や、ゲストハウス内に本学寄贈のセミナー室などが設置されており、今後より一層の交流促進が期待される。

なお、大川陽康理事長ならびに廣瀬治男教務部長のお二人が、すでに同大学より名誉教授の称号を授与されておられ、神馬学長のそれが三人目となるが、まことに慶賀にたえない次第である。

## 英文大学案内が完成!!

あらゆる面で学問の国際化が強まる中、新しい英文大学案内（A4判四十八ページ、カリキュラムは別冊仕立て）が完成した。内容は、



国外研修や学会出席など必要な向きは、常時、教務課に置いてあるので、大いにご利用いただきたい。

## 弓道場の第一期工事が進展

数年来、学生達からの要望が出ていた弓道場建設がいよいよ始まった。今回第一期工事として、先ず礼儀作法の場とも言える射場の建設が進められているが、

施設規模は、鉄骨平屋建て一六六㎡で、十月中には完成の運び。  
場所はキャンパスの西端で、野球場の先に位置し、

## 日本鉄道保存協会の 総会、本学で盛大に 開催される!!

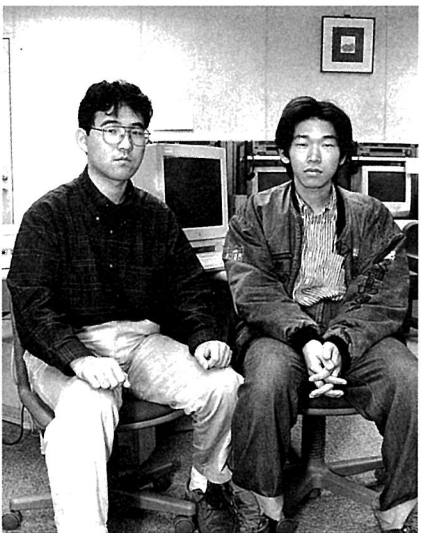
さる八月三十日、財団法人シヨナルトラストの分科会である「日本鉄道保存協会」平成八年度総会が、本学で開催された。

会合は、まず神馬学長および鈴木工業技術博物館館長があいさつ。次いで代表幹事団体として財団法人シヨナルトラスト理事の河合茂美氏らが所見を述べられ、メインの「地域活性化に活かす歴史的車両の動態保存」をテーマとするシンポジウムが、活発に繰り広げられた。



は、おおむね日本語版と同じだが、留学生別科・日本語研修課程の履修者ならびに学部留学生受け入れのための募集要項が付加されている。

また情報工学棟四階の権澤研の卒研生でもある。そんな二人がフリーソフト「BML」を作り上げ、高い評価を得ている。



田部井 敏信君（左）  
橋爪 俊雄君（右）

■雑誌で評判の  
フリーソフトを作った仲よし

田部井敏信君と橋爪俊雄君は、入学当初から同じく「コン研究会」の主催するパソコンネットワーク「N.I.T.N.E.T」のメンバーであり、また情報工学棟四階の権澤研の卒研生でもある。そんな二人がフリーソフト「BML」を作り上げ、高い評価を得ている。

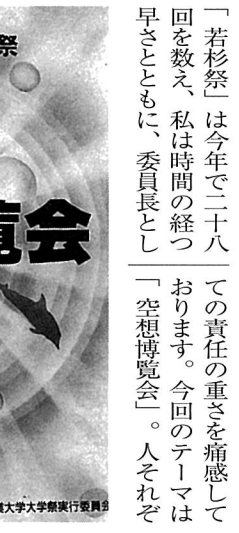
田部井君は群馬県太田市の生まれ。県立の太田高校を卒業し、商業系の専門学校へ進学。専門学校で情報処理などを学んでいるうちにコンピュータに興味をもった。前出の田部井君は、工学系の大学への進学を決心し、一般入試で本学のシステム工学科へ入学した。

田部井君は群馬県太田市の生まれ。県立の太田高校を卒業し、商業系の専門学校へ進学。専門学校で情報処理などを学んでいるうちにコンピュータに興味をもった。前出の田部井君は、工学系の大学への進学を決心し、一般入試で本学のシステム工学科へ入学した。

## 学園祭テーマと開催のポイント

大学祭実行委員長——古田 昌嗣  
（電気電子工学科三年）

昌嗣



第28回 若杉祭  
空想博覧会  
平成8年11月22日～4日

「若杉祭」は今年で二十八回を数え、私は時間の経つ早さとともに、委員長としての責任の重さを痛感しております。今回のテーマは「空想博覧会」。人それぞれ

の夢や創造を「空想」と題し、それを発表する場が若杉祭であってほしいとの願いを込めてテーマにした。自分自身もそんな若杉祭を目指し頑張っている所です。

さて、今回の若杉祭も企画を沢山用意し、来校された方々が参加しやすいように配慮しております。ぜひ積極的に参加して頂き、楽しんでほしいと思います。皆様がお越し下さるのを、心よりお待ちしております。

行き詰まった時にネットワーク上の仲間と呼びかけていたら、橋爪君が話に乗ってきた。ある程度形になったところで、広く世間で使ってもらおうとフリーソフトとしてインターネットやニフティサーブ等のネットワーク上で公開したところ、

田部井君は群馬県太田市の生まれ。県立の太田高校を卒業し、商業系の専門学校へ進学。専門学校で情報処理などを学んでいるうちにコンピュータに興味をもった。前出の田部井君は、工学系の大学への進学を決心し、一般入試で本学のシステム工学科へ入学した。

田部井君は群馬県太田市の生まれ。県立の太田高校を卒業し、商業系の専門学校へ進学。専門学校で情報処理などを学んでいるうちにコンピュータに興味をもった。前出の田部井君は、工学系の大学への進学を決心し、一般入試で本学のシステム工学科へ入学した。

（大塚）



# 教育職員免許法認定公開講座 全国より受講希望者が殺到

昨年度全国の大学に先駆けて、本学で開講された免許法認定公開講座（文部省認定）は、今年は七月二十九日より二週間、四科目の講座がそれぞれ四日間ずつ、全国より延べ百五十四名の受講者を集めて実施された。この講座は、専修免許修得のため、高等学校の工業並びに中学校等の技術の一種免許を有する教員を対象に、大学院レベルの科目を六単位修得（実務経験六年以上）するためのもので、参加者の熱心な受講をえて滞りなく終了した。

講座は募集開始早々申込みが殺到し、定員の関係からやむを得ず受講科目を制限したり、お断りすることもあり、受講希望者に迷惑をおかけしたが、毎年継続して開講するということで、あしからずご容赦いただきたい。

なお、昨年度からの継続受講をふくめ、四十二名の受講者が六単位を修得されている。

## 産学校流会のサロン 情報工学棟内に設置

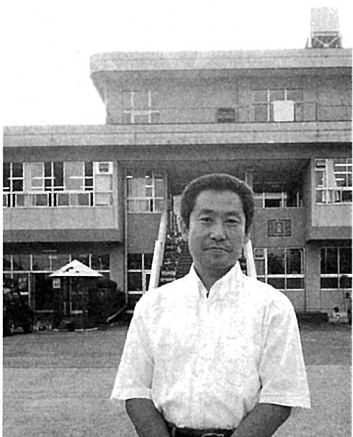
一層の活性化を図る

日本工業大学がもつ研究能力や研究成果を広く社会に還元すべく、昭和六十年十月、日刊工業新聞社の協力を得て、日本工業大学・埼玉産学交流会を設立した。当初、中堅・中小企業の技術レベルの向上を第一目標として、毎月一回例会を開催し、大学教員の学術講演や技術相談、新製品開発のための懇談会など企業と

## 近事片々

私は昭和五十二年、開設されてまもないシステム工学科に入学し、昭和五十六年三月に同学科の第三期生として卒業いたしました。入学後直ちに応援団に入部し毎日厳しい練習に明け暮れました。腹の底から大声を出して覚えた校歌の一節に「工学の道限りなく」という歌詞がありますが、私の大学生活は校歌とは少し異なった四年間だったような気がします。

## OB便り



## 特殊教育の現場 に生きて16年...

小澤 嘉昭  
システム工学科（昭和56年卒）  
春日部養護学校勤務

応援団員としての厳しい生活を送る傍ら、私は体育会本部役員という重責を担うようになり、プレッシャーに負けそうになりましたが、同期の団員達の協力によってどうにか大任を全うすることができました。また文化団体の入達とも会議や大学の行事などで交流を深めたことにより、異なった方向から物事を見ることの必要性を認識しました。

課長（現総務部長）、小林教授（現学生部長）などのご恩恵は忘れられません。しかし、体育会の上級生として時には、教職員の方々と立場の違いから激しく対立することもあり、組織の維持や運営で大いに悩みましたが、この頃培ったこ

なものになりました。卒業を控えた進路決定では、病院のアルバイトで知った理学療法士の道に挑みましたが志しに反した結果になり、親との約束で受けた教員採用試験に回らずとも合格してしまい、不本意ながらとりあえず就職に就くことになりました。

そこでの子供達との出会いは非常に鮮烈であり、彼らの生きる姿勢に感動させられ、いつしか十六年の歳月が流れ去りました。特殊教育の現場に入つたばかりの時は、毎日何をしていたのか分らず、基礎知識も不十分であったため、子供達の回りを

右往左往しているだけで、初給料を手にした時は、「これで給料を頂いていいのだろうか」と申し訳ない思いを抱いたことを覚えています。それ以来私は、学生時代の受身であった勉強法を改め、毎日学習であるという立場で楽しく仕事に臨み、様々な研修会にも積極的に参加させて頂いたお蔭で念願の養護学校教員の免許状を手に入れることができました。

今、冷静に考えると、私の職業選択は、いさゝか成り行き任せの感があったことは否めませんが、幸いにも良き同僚に恵まれ、大過なく満足した日々を送っております。また、若干遠回りしましたが十六年間築いてきた経験が今の私を支えています。自信が過信にならないように、初給料を頂いた日の気持ちを忘れずに常に笑顔で絶えず子供達の輪の中に混って生きようと思っています。

## 幾何学分析会研究集会 開催される

去る十月十一日から十三日の三日間にわたり、本学学友会館を会場に「幾何学研究集会」が開催された。研究テーマは、「多様体の幾何学的諸構造について」で、同研究会は、筑波大学伊藤光弘教授の科学研究

費・基盤（A）の補助を受けた。その際、学生時代に一度決意した理学療法士への思いが絶えがたく、少しでも経験を積むことができればと養護学校の教員を決心したが、この道に入った動機です。私は当初腰掛けのつもりで入った職場でしたが、

海外からの来訪  
イリノイ州立大学Wolfgang Martin Boerner教授「講演」リーダーの現状と将来及び学術交流：10月4日  
オハイオ州立大学J.D. Young教授  
学術交流：10月4日  
ミュンヘン工科大学Jugendteufel教授  
学術交流：10月4日

育研究所）／出張先「カナダ（7/14）8/24」目的「日本工業大学付属中学校カナダ夏季短期研修の準備及び指導、L.C.C.留学生に対するカウンセリング及び指導」J.A.ムーア講師（共通系）／出張先「オーストラリア（7/17）7/21」目的「人間に役立つコンピュータに関する国際会議に出席」石崎 克也講師（共通系）／出張先「イギリス（7/21）7/28」目的「値分布理論に関する国際研究集会に出席」梅崎 栄作助教授（機械工学科）／出張先「韓国（7/21）7/29」目的「アジア太平洋強度・破壊国際会議にて研究発表」鈴木 清教授（システム工学科）／出張先「中国（7/29）7/31」目的「国際低粒加工会議開催準備委員会に出席」竹内 淳彦教授（共通系）／出張先「オランダ・オーストラリア・スウェーデン・ノルウェー・イギリス（7/30）8/25」目的「国際地理学会にて研究発表及び工業地域視察」星野 坦之教授（システム工学科）／出張先「タイ（7/31）8/15」目的「テラロンコン大学大学院にて講義」村口 昌之教授（建築学科）／出張先「中国（8/2）8/9」目的「学術交流及び建築材料（竹材）研究視察」飯塚 完司講師（電気実験研究センター）／出張先「アメリカ（7/9）9/20」目的「建築物のライフサイクルに伴うエネルギー及び全体の動向」に関する国際会議にて論文発表

田中 隆治助教授（工業教育研究所）／出張先「カナダ（7/14）8/24」目的「日本工業大学付属中学校カナダ夏季短期研修の準備及び指導、L.C.C.留学生に対するカウンセリング及び指導」J.A.ムーア講師（共通系）／出張先「オーストラリア（7/17）7/21」目的「人間に役立つコンピュータに関する国際会議に出席」石崎 克也講師（共通系）／出張先「イギリス（7/21）7/28」目的「値分布理論に関する国際研究集会に出席」梅崎 栄作助教授（機械工学科）／出張先「韓国（7/21）7/29」目的「アジア太平洋強度・破壊国際会議にて研究発表」鈴木 清教授（システム工学科）／出張先「中国（7/29）7/31」目的「国際低粒加工会議開催準備委員会に出席」竹内 淳彦教授（共通系）／出張先「オランダ・オーストラリア・スウェーデン・ノルウェー・イギリス（7/30）8/25」目的「国際地理学会にて研究発表及び工業地域視察」星野 坦之教授（システム工学科）／出張先「タイ（7/31）8/15」目的「テラロンコン大学大学院にて講義」村口 昌之教授（建築学科）／出張先「中国（8/2）8/9」目的「学術交流及び建築材料（竹材）研究視察」飯塚 完司講師（電気実験研究センター）／出張先「アメリカ（7/9）9/20」目的「建築物のライフサイクルに伴うエネルギー及び全体の動向」に関する国際会議にて論文発表

田中 隆治助教授（工業教育研究所）／出張先「カナダ（7/14）8/24」目的「日本工業大学付属中学校カナダ夏季短期研修の準備及び指導、L.C.C.留学生に対するカウンセリング及び指導」J.A.ムーア講師（共通系）／出張先「オーストラリア（7/17）7/21」目的「人間に役立つコンピュータに関する国際会議に出席」石崎 克也講師（共通系）／出張先「イギリス（7/21）7/28」目的「値分布理論に関する国際研究集会に出席」梅崎 栄作助教授（機械工学科）／出張先「韓国（7/21）7/29」目的「アジア太平洋強度・破壊国際会議にて研究発表」鈴木 清教授（システム工学科）／出張先「中国（7/29）7/31」目的「国際低粒加工会議開催準備委員会に出席」竹内 淳彦教授（共通系）／出張先「オランダ・オーストラリア・スウェーデン・ノルウェー・イギリス（7/30）8/25」目的「国際地理学会にて研究発表及び工業地域視察」星野 坦之教授（システム工学科）／出張先「タイ（7/31）8/15」目的「テラロンコン大学大学院にて講義」村口 昌之教授（建築学科）／出張先「中国（8/2）8/9」目的「学術交流及び建築材料（竹材）研究視察」飯塚 完司講師（電気実験研究センター）／出張先「アメリカ（7/9）9/20」目的「建築物のライフサイクルに伴うエネルギー及び全体の動向」に関する国際会議にて論文発表

田中 隆治助教授（工業教育研究所）／出張先「カナダ（7/14）8/24」目的「日本工業大学付属中学校カナダ夏季短期研修の準備及び指導、L.C.C.留学生に対するカウンセリング及び指導」J.A.ムーア講師（共通系）／出張先「オーストラリア（7/17）7/21」目的「人間に役立つコンピュータに関する国際会議に出席」石崎 克也講師（共通系）／出張先「イギリス（7/21）7/28」目的「値分布理論に関する国際研究集会に出席」梅崎 栄作助教授（機械工学科）／出張先「韓国（7/21）7/29」目的「アジア太平洋強度・破壊国際会議にて研究発表」鈴木 清教授（システム工学科）／出張先「中国（7/29）7/31」目的「国際低粒加工会議開催準備委員会に出席」竹内 淳彦教授（共通系）／出張先「オランダ・オーストラリア・スウェーデン・ノルウェー・イギリス（7/30）8/25」目的「国際地理学会にて研究発表及び工業地域視察」星野 坦之教授（システム工学科）／出張先「タイ（7/31）8/15」目的「テラロンコン大学大学院にて講義」村口 昌之教授（建築学科）／出張先「中国（8/2）8/9」目的「学術交流及び建築材料（竹材）研究視察」飯塚 完司講師（電気実験研究センター）／出張先「アメリカ（7/9）9/20」目的「建築物のライフサイクルに伴うエネルギー及び全体の動向」に関する国際会議にて論文発表

育研究所）／出張先「カナダ（7/14）8/24」目的「日本工業大学付属中学校カナダ夏季短期研修の準備及び指導、L.C.C.留学生に対するカウンセリング及び指導」J.A.ムーア講師（共通系）／出張先「オーストラリア（7/17）7/21」目的「人間に役立つコンピュータに関する国際会議に出席」石崎 克也講師（共通系）／出張先「イギリス（7/21）7/28」目的「値分布理論に関する国際研究集会に出席」梅崎 栄作助教授（機械工学科）／出張先「韓国（7/21）7/29」目的「アジア太平洋強度・破壊国際会議にて研究発表」鈴木 清教授（システム工学科）／出張先「中国（7/29）7/31」目的「国際低粒加工会議開催準備委員会に出席」竹内 淳彦教授（共通系）／出張先「オランダ・オーストラリア・スウェーデン・ノルウェー・イギリス（7/30）8/25」目的「国際地理学会にて研究発表及び工業地域視察」星野 坦之教授（システム工学科）／出張先「タイ（7/31）8/15」目的「テラロンコン大学大学院にて講義」村口 昌之教授（建築学科）／出張先「中国（8/2）8/9」目的「学術交流及び建築材料（竹材）研究視察」飯塚 完司講師（電気実験研究センター）／出張先「アメリカ（7/9）9/20」目的「建築物のライフサイクルに伴うエネルギー及び全体の動向」に関する国際会議にて論文発表

田中 隆治助教授（工業教育研究所）／出張先「カナダ（7/14）8/24」目的「日本工業大学付属中学校カナダ夏季短期研修の準備及び指導、L.C.C.留学生に対するカウンセリング及び指導」J.A.ムーア講師（共通系）／出張先「オーストラリア（7/17）7/21」目的「人間に役立つコンピュータに関する国際会議に出席」石崎 克也講師（共通系）／出張先「イギリス（7/21）7/28」目的「値分布理論に関する国際研究集会に出席」梅崎 栄作助教授（機械工学科）／出張先「韓国（7/21）7/29」目的「アジア太平洋強度・破壊国際会議にて研究発表」鈴木 清教授（システム工学科）／出張先「中国（7/29）7/31」目的「国際低粒加工会議開催準備委員会に出席」竹内 淳彦教授（共通系）／出張先「オランダ・オーストラリア・スウェーデン・ノルウェー・イギリス（7/30）8/25」目的「国際地理学会にて研究発表及び工業地域視察」星野 坦之教授（システム工学科）／出張先「タイ（7/31）8/15」目的「テラロンコン大学大学院にて講義」村口 昌之教授（建築学科）／出張先「中国（8/2）8/9」目的「学術交流及び建築材料（竹材）研究視察」飯塚 完司講師（電気実験研究センター）／出張先「アメリカ（7/9）9/20」目的「建築物のライフサイクルに伴うエネルギー及び全体の動向」に関する国際会議にて論文発表

田中 隆治助教授（工業教育研究所）／出張先「カナダ（7/14）8/24」目的「日本工業大学付属中学校カナダ夏季短期研修の準備及び指導、L.C.C.留学生に対するカウンセリング及び指導」J.A.ムーア講師（共通系）／出張先「オーストラリア（7/17）7/21」目的「人間に役立つコンピュータに関する国際会議に出席」石崎 克也講師（共通系）／出張先「イギリス（7/21）7/28」目的「値分布理論に関する国際研究集会に出席」梅崎 栄作助教授（機械工学科）／出張先「韓国（7/21）7/29」目的「アジア太平洋強度・破壊国際会議にて研究発表」鈴木 清教授（システム工学科）／出張先「中国（7/29）7/31」目的「国際低粒加工会議開催準備委員会に出席」竹内 淳彦教授（共通系）／出張先「オランダ・オーストラリア・スウェーデン・ノルウェー・イギリス（7/30）8/25」目的「国際地理学会にて研究発表及び工業地域視察」星野 坦之教授（システム工学科）／出張先「タイ（7/31）8/15」目的「テラロンコン大学大学院にて講義」村口 昌之教授（建築学科）／出張先「中国（8/2）8/9」目的「学術交流及び建築材料（竹材）研究視察」飯塚 完司講師（電気実験研究センター）／出張先「アメリカ（7/9）9/20」目的「建築物のライフサイクルに伴うエネルギー及び全体の動向」に関する国際会議にて論文発表

田中 隆治助教授（工業教育研究所）／出張先「カナダ（7/14）8/24」目的「日本工業大学付属中学校カナダ夏季短期研修の準備及び指導、L.C.C.留学生に対するカウンセリング及び指導」J.A.ムーア講師（共通系）／出張先「オーストラリア（7/17）7/21」目的「人間に役立つコンピュータに関する国際会議に出席」石崎 克也講師（共通系）／出張先「イギリス（7/21）7/28」目的「値分布理論に関する国際研究集会に出席」梅崎 栄作助教授（機械工学科）／出張先「韓国（7/21）7/29」目的「アジア太平洋強度・破壊国際会議にて研究発表」鈴木 清教授（システム工学科）／出張先「中国（7/29）7/31」目的「国際低粒加工会議開催準備委員会に出席」竹内 淳彦教授（共通系）／出張先「オランダ・オーストラリア・スウェーデン・ノルウェー・イギリス（7/30）8/25」目的「国際地理学会にて研究発表及び工業地域視察」星野 坦之教授（システム工学科）／出張先「タイ（7/31）8/15」目的「テラロンコン大学大学院にて講義」村口 昌之教授（建築学科）／出張先「中国（8/2）8/9」目的「学術交流及び建築材料（竹材）研究視察」飯塚 完司講師（電気実験研究センター）／出張先「アメリカ（7/9）9/20」目的「建築物のライフサイクルに伴うエネルギー及び全体の動向」に関する国際会議にて論文発表

田中 隆治助教授（工業教育研究所）／出張先「カナダ（7/14）8/24」目的「日本工業大学付属中学校カナダ夏季短期研修の準備及び指導、L.C.C.留学生に対するカウンセリング及び指導」J.A.ムーア講師（共通系）／出張先「オーストラリア（7/17）7/21」目的「人間に役立つコンピュータに関する国際会議に出席」石崎 克也講師（共通系）／出張先「イギリス（7/21）7/28」目的「値分布理論に関する国際研究集会に出席」梅崎 栄作助教授（機械工学科）／出張先「韓国（7/21）7/29」目的「アジア太平洋強度・破壊国際会議にて研究発表」鈴木 清教授（システム工学科）／出張先「中国（7/29）7/31」目的「国際低粒加工会議開催準備委員会に出席」竹内 淳彦教授（共通系）／出張先「オランダ・オーストラリア・スウェーデン・ノルウェー・イギリス（7/30）8/25」目的「国際地理学会にて研究発表及び工業地域視察」星野 坦之教授（システム工学科）／出張先「タイ（7/31）8/15」目的「テラロンコン大学大学院にて講義」村口 昌之教授（建築学科）／出張先「中国（8/2）8/9」目的「学術交流及び建築材料（竹材）研究視察」飯塚 完司講師（電気実験研究センター）／出張先「アメリカ（7/9）9/20」目的「建築物のライフサイクルに伴うエネルギー及び全体の動向」に関する国際会議にて論文発表

田中 隆治助教授（工業教育研究所）／出張先「カナダ（7/14）8/24」目的「日本工業大学付属中学校カナダ夏季短期研修の準備及び指導、L.C.C.留学生に対するカウンセリング及び指導」J.A.ムーア講師（共通系）／出張先「オーストラリア（7/17）7/21」目的「人間に役立つコンピュータに関する国際会議に出席」石崎 克也講師（共通系）／出張先「イギリス（7/21）7/28」目的「値分布理論に関する国際研究集会に出席」梅崎 栄作助教授（機械工学科）／出張先「韓国（7/21）7/29」目的「アジア太平洋強度・破壊国際会議にて研究発表」鈴木 清教授（システム工学科）／出張先「中国（7/29）7/31」目的「国際低粒加工会議開催準備委員会に出席」竹内 淳彦教授（共通系）／出張先「オランダ・オーストラリア・スウェーデン・ノルウェー・イギリス（7/30）8/25」目的「国際地理学会にて研究発表及び工業地域視察」星野 坦之教授（システム工学科）／出張先「タイ（7/31）8/15」目的「テラロンコン大学大学院にて講義」村口 昌之教授（建築学科）／出張先「中国（8/2）8/9」目的「学術交流及び建築材料（竹材）研究視察」飯塚 完司講師（電気実験研究センター）／出張先「アメリカ（7/9）9/20」目的「建築物のライフサイクルに伴うエネルギー及び全体の動向」に関する国際会議にて論文発表

## 「SL講座」開講 少年の夢 大いにふくらむ



夏期休暇中の八月二十日より五日間、大学近隣の小、中学生を集めた初めての企画として、夏季特別講座「SL講座」が開講された。日本の明日を担う少年たちに、SLを少しでも理工学に親しんでもらおうと、SLの構造から始まり、ミニSLの火入れから運転まで行われた講座は、参加した六名の少年たちの予想以上の熱心な受講に、指導した大石和太郎講師（東京工業高校教員）も、思わずたじたじするシーンもあるほどだった。



◎学園創立90周年記念事業

特報!!

# 学園ライフの拠点

## 学生センターの建設



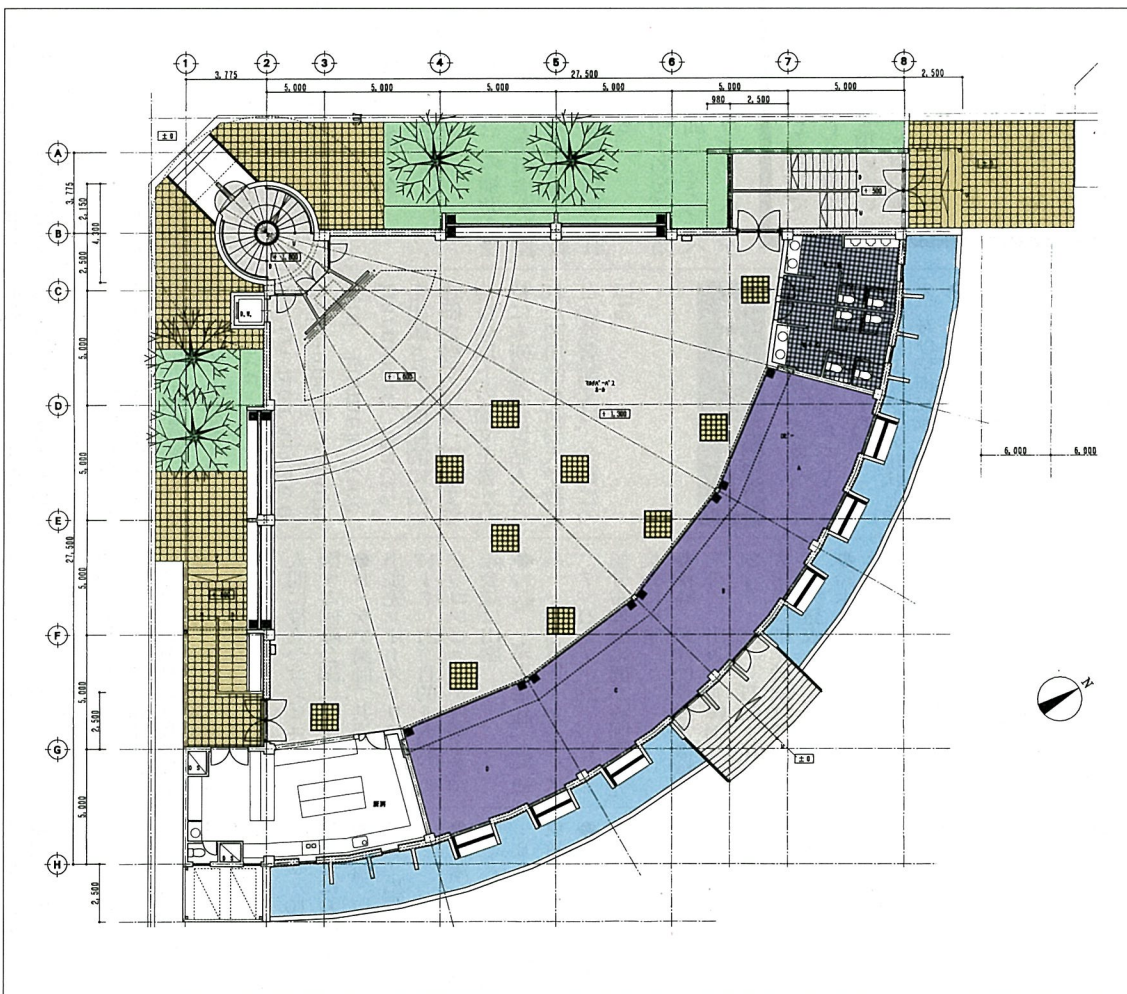
昨今、キャンパス施設の充実ぶりは、来訪者の目を見張らせるが、学園創立90周年を迎える来年、いよいよ学生待望の「学生センター」が誕生する。

施設の概要は、ここに紹介の通りだが、クラブ棟・合宿棟・体育館、さらにはサービスセンターなどに隣接して建設されることに明らかのように、まさに「学園ライフの拠点」としての活用が、つよく意図されている。

したがって、デザインコンセプトも、活発な活動を願って軽快感のあるテント構造を採用し、また屋根の様相も、この施設を拠点に学生生活という「舞台」を自由かつ縦横に舞っていただけるよう、舞いの象徴としての「扇」型に、その願いが託されている。

この斬新なイメージの空間創造を構想されたのは、ここ数年、建築学科実験研究棟、情報工学科実験研究棟、さらには第二食堂（ビザリア・トレビ）などを手掛けられた建築学科の村口昌之教授。ちなみに村口教授は、この七月十八日に起工した機械工学科実験研究棟ならびに機械工作センターのそれも担当されているが、その件に関しては、いずれ折を見てつまびらかにしたい。

なお「学生センター」の着工は、この十月。竣工は平成九年五月末の予定である。



▲1階平面図 ロビーを抜けると、多目的ホールが広がる。建物の南及び西面は、セミアウトドア空間を演出する大型引込み折畳みガラス戸で、緑豊かな景観を望める。

### 創立90周年記念 募金ご協力をお願い

また、大学キャンパスにいただきたく宜しく願う。おける記念事業として「学生センター」の建設を計画いたしました。それは、課外活動の拠点施設としてサウンドスタジオ、ミーティングルーム、多目的ホール、ギャラリー、厨房等をもつ、学生が交流の場として多目的で自由に使うことができる施設です。建築面積七四〇・三五平方メートル、延床面積一、四〇〇・九三平方メートル、総事業費は四億円です。このたびの記念事業に、ご理解、まして、特段のご理解、募金活動に対するご協賛を

募金要領

●募金の種別

○個人 一口 一万円

（一口以上）

○法人 一口 一〇万円

（一口以上）

●募金の期間

平成八年八月一日～平成十年七月三十一日

●お問い合わせ先

募金委員会事務局（日本工業大学経理課内）

〇四八〇一三四一四一一一

内線三二二

### 学生センター の地鎮祭、厳粛に挙行!!

学生センターの地鎮祭が、10月17日（木）午前11時より姫宮神社成田宮司により厳粛に行われ無事終了した。本センターの概要の詳細は上記の通りだが、これにより、設計監理「スペースコンセプト」(株)、施工者「熊谷組」(株)、三英電業(株)、三建設工業(株)による工事が、開始される。



### 人事異動

#### 【新任】

（4月1日付）

◆仲嶋 桐子事務職員（7月1日付教務課配属）

昭和四十五年三月生まれ。平成三年八月、アンドリュウズ大学短期課程卒。

（10月1日付）

◆船橋 昭光事務職員（施設管理課）

昭和三十三年七月一日生まれ。昭和五十七年三月日本工業大学電気工学科卒。

（7月1日付）

◆川面 より子 総務部総務課→財務部経理課主任（配置換え）

◆林 祐司 総務部総務課主任

◆鈴木 功作 総務部施設管理課主任

◆倉島 清隆 財務部経理課主任

◆入山 明美 教務部教務課→学生部学生課主任（配置換え）

◆高田 昭二 学生部学生課主任

◆初見 範子 学生部就職課主任

（9月30日付）

◆原 利次教授 教務部長補佐を解く

#### 【任命】

（7月1日付）

◆田部井 英世教育技術員 機械工作センター副主任（10月1日付）

◆柳沢 章教授 機械工学科主任（再任）

◆原 利次教授 システム工学科主任（新任）

◆松田 郁夫教授 情報工学科主任（再任）

（7月1日付）

◆福沢 浩 財務部経理課長→財務部用途・管財課長

◆荒井 清美 財務部用途・管財課長→学生部就職課長

◆野村 隆 学生部就職課長→財務部経理課長

◆直村 潔 学生部学生課主任→学生部就職課主任

◆源田 郁絵 財務部経理課→教務部教務課（共通系事務）

◆杉村 京子 学生部学生課→総務部総務課（学科学務）

◆吉川 寿子 共通系→機械工学科

◆中島 美代子 機械工学科→電気電子工学科

◆吉田 有美 電気電子工学科→建築学科

### 編集後記

◆今回は、九十周年記念事業である「学生センター」建設の趣旨・概要並びに募金についての記事が主なものとなっています。すでに様々な方々に募金のお願いを始めていますが、1人でも多くの方に協力をお願い申し上げる次第です。

▼教員同志の国際交流も盛んになってきています。1例として、渡辺康夫教授のもとにレダセンシングの世界的権威であるイリノイ州立大学ボナー博士又サブリミ波の権威者ミシガン州立大学ウラビー博士が訪問されました。

また、学生も恒例のカナダとヨーロッパ研修に際し寄稿してくれました。本堂に、世界が近くなったことを実感します。本学卒業生も世界で活躍のできるエンジンニアとして巣立っていつて欲しいと願います。

▼秋の若杉祭が開催されます。学生の伝統ある最大のイベントです。飲み過ぎに注意して、若さの限りハジケてください。

### 非常勤講師

（9月20日付）

【共通系】八木 恒雄（教職課程）

（10月2日付）

【留学生別科】中村勝彦（日本語）／遠山千佳（日本語）

当日は、大川理事長、神馬学長以下学園の理事等が出席した。また、本事業に協賛をいただいている後援会神山会長、工友会藤田会長、宣代会富永会長として学生の代表として、鈴木中央執行委員会委員長等も列席、工事の安全と大学の未来について祈念した。